

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2013.10 vol.90

平成25年度

がん看護エキスパートナース研修を開催して

地域がん診療連携拠点病院として、がん看護に必要な専門的な知識と技術を統合し、理論に基づいた臨床実践ができる看護師を育成することと、がん看護臨床実践において、リーダーシップを発揮できる人材の育成を目的に、がん看護エキスパート研修を9月17日から9月26日の7日間、がん看護経験3年目以上の看護師を対象として、開催致しました。院外10名・院内5名の研修生が参加致しました。

研修内容はがん疫学・病理学、腫瘍学、がん診断とその治療と化学療法看護、家族看護、放射線療法看護、緩和ケア、がん性疼痛マネジメント、看護倫理、コミュニケーションスキルなど23項目の講義とともに病棟における実習で、基本的知識と看護実践をつなぐ系統立てた研修内容としました。

講師は、院内の医師や緩和ケア認定看護師・がん性疼痛看護認定看護師・がん化学療法看護認定看護師・臨床心理士・MSWなどが中心となり、最新の治療と専門性の高い看護とチーム医療とその連携を学び、そして、特別講演に、兵庫県立看護大学教授 内布敦子先生の「患者中心の症状マネジメントと看護ケア」の臨床応用として、患者の症状体験・症状の対処（方略）・症状の結果のマネジメントモデルの学びと、IASM（症状マネジメントの統合的アプローチ：Integrated Approach to Symptom Management）による事例検討で、患者の体験を聴くことの重要さと個々の具体的な看護の方策が明確になる内容構成としました。

研修生からは「疾患と看護を結びつけて学べた。自分自身の看護を振り返り、自己を見つめられた。同じ悩みを共有し、お互いにディスカッションでき、解決できた。」などの意見を頂きました。

がん看護エキスパート研修による、研修生のネットワークは、地域連携の構築の一助となり、更なるがん看護の質向上に繋がっていくことと思います。また研修生が中心となり、がんと向き合っている患者様やご家族が安心して治療や入院生活、自宅での生活がおくることができるように、専門的知識を生かした看護ケアの提供をして欲しいと思います。

今後も地域がん診療連携拠点病院として、がん看護の専門性の向上と人材育成に努めていきたいと考えています。

文責：がん看護エキスパート研修担当看護師長 堂園 文子



# 第15回世界脳神経外科学会 WFNS 2013 in Seoul

4年に1回、オリンピックの開催された翌年に世界脳神経外科学会 World Federation of NeuroSurgery (WFNS) は開催されます。今年は韓国ソウルの9月8日～13日まで開催されました。これまでも世界中いろいろな所で開かれ、数回出席発表させて頂いていましたがこれが最後の参加になるかもしれないと思い演題の登録をしておりました(4年後は退職しているでしょう)。できればポスターでの発表をと登録しておりましたが、学会本部から「抄録査読にて高いスコアがでたので oral presentation にしてくれ」との依頼があり承諾しました。ポスターの方が気楽だったのですが、私自身の発表は



「Analysis of Relationship between Antithrombotic Therapy and Cerebral Microbleeding among Consecutive Acute Intracerebral Hemorrhage.」という長い演題名ですが、要は抗血栓療法が微小出血を増やしているわけではないという内容です。確かにそのように断言した論文は見られませんし、そんなことはないだろうと疑われそうな結論です。学会でもいくつか質問はありましたが、結論自体に反論する人はいませんでした。Breakdown mechanism of vascular wall についてはいくつかの仮説を提起しました。しかしそれらについてはまだまだ研究の余地はありそうです。学会には世界各国から4千人ほどの参加がありました。日韓関係の余波もあり日本からの出席は何だか少ないようでした。私のセッションにはイラン、ウズベキスタン、チリ、フィンランド、ロシア、イエメン、アルメニア等、これまであまりお見かけしなかった様な国からの参加者も多く見られました。英語も各国訛りで楽しく聞けました。

今回の国際学会に批判めいた意見を言わせてもらうと、参会費が700USドル(約7万円)と高すぎたことです。レセプションパーティでは韓国伝統舞踊もありましたが"girl generation 少女時代"というK-Popアイドル達のショーまでありました。学会と思って参加した日本人の私にとって、面食らうものでした。文化の違い、あるいは国際学会のあり方についての先入観のずれを感じさせてくれるものでした。今回の開催を主導した韓国の脳神経外科医の先生達の積極果敢な取り組みは、オリンピックにみられる様なエンターテインメント性あふれる、まさしく Festival of WFNS in Seoul と言ったものでした。K-popアイドルの登場は、日本で言えばAKB48を学会のレセプションによぶようなものです。韓国政府はK-popを新しい文化として捉え、海外への文化輸出を考えているほどです。賛否両論があるでしょうが、韓国脳神経外科医はある意味、進取の気性に富んでいるといえるでしょう。彼らの演出は私にとってはカルチャーショックでした。高い参会費はそれらにも費やされているんだらうと思いますが、それはそれで韓国社会の文化意識からかけ離れたものではないのでしょうか。参会費数千円くらいで国際学会が演出されても、それはそれで受け入れていくことになるでしょう。そんな国で開催されるのもいいなと思っています。ソウルの繁華街や観光名所に出ることもなく、学会場との行き帰りで終わりました。

文責：総括診療部長 今村 純一



# 診療科紹介 一外科・消化器外科一

## 外科の現状と展望

### 【使命】

外科グループは、①科学的根拠に基づいた医療と先端医療の癒合を図り、多職種との連携によるチーム医療を実践すること。②「病む人の気持ち」を重視し、説明と同意に加え、信頼関係に基づいたテーラーメイド型の医療を実践すること。③治療の主軸である手術は、安全性、根治性、機能性、審美性を追求すること。以上をもって、次世代の外科・消化器外科医を育成し、地域医療に貢献することを使命としています。

### 【診療体制】

宮崎部長以下、菰方、海江田、豊崎ら 4 名の外科医師と卒後初期研修医により、外科・消化器外科領域の患者様に、24 時間 365 日対応致します。

### 【診療範囲】

#### ●地域がん診療拠点病院として

がんの外科治療に関わるサージカルボードとして、日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医といった資格を常勤外科医師は取得しております。日本内視鏡外科学会技術認定医にも、現在 apply 中です。がんの外科治療に関わる施設認定として、日本外科学会修練施設、日本消化器外科学会修練施設（2013 年 12 月取得予定）があります。日本肝胆膵外科学会高度技能修練施設取得は 2-3 年のスパンで考えております。

消化器がんに対して、各臓器のがん診療ガイドラインを遵守し、消化器内科、腫瘍内科、放射線科、臨床病理、緩和ケアチーム、NST、ICT、外来化学療法室、がん支援相談室、関連ある各認定看護師、臨床心理士と密な連携のもと、全人的に患者様をサポート致します。消化器がん治療は、毎週火曜日午後 5 時 15 分からの合同カンファレンスでの症例検討会、カンサーボードを通して、外科治療、化学療法、放射線療法を背景に各専門医の忌憚のない意見交換により決定します。治療の主軸である手術は、安全性、根治性を第 1 としながら、がんの進行度、開腹手術歴、患者様の要望も踏まえ、可能な限り、機能温存、審美性を追求し、患者様にやさしい腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。腹腔鏡下手術は、胃切除、噴門側胃切除、胃全摘、小腸切除、結腸切除（右側、横行、左側、S 状）、直腸切除、直腸切断も行っております。本年度末より内視鏡手術システムとして、OLYMPUS 社製の VISERAELITE2D / 3D 導入予定で、3D の立体的視野のもと、より精緻な鏡視下手術が可能となります。肝胆膵がんは、難治性で難易度の高い手術を要する場合も多いですが、鹿児島大学病院で 12 年間、肝胆膵外科を専門としてきた外科医師が 2013 年春より外科チームに参画し、肝がんに対する肝切除、膵頭部領域がん（中下部胆管癌、膵頭部癌、乳頭部癌、十二指腸癌）に対する膵頭十二指腸切除、上部胆管、肝門部胆管がんに対する肝外胆管切除を伴う肝葉切除、内科的治療抵抗性の慢性膵炎に対する切除・内瘻術、進行胆嚢癌などに対する肝膵同時切除、血行再建を伴う肝膵脾の手術も可能です。また、内視鏡下肝切除、膵切除（膵頭十二指腸切除及び膵体尾部切除）もすでに実施しております。また、2013 年 8 月から当院消化器内科に ERCP、EUS（内視鏡的超音波診断装置）も導入され、従来の EMR（内視鏡的粘膜切除）に加え、特に食道、胃、大腸早期がんに対する ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）も可能となりました。それにより、消化管がんは早期から進行、再発または切除不能にかけて、EMR-ESD-腹腔鏡下手術-開腹手術-化学療法/放射線療法-緩和と一連の淀みのないエビデンスに基づく治療とケアが可能です。肝切除症例は、富士フィルム社製の SYNAPSEVINCENT で 3D 構築を行い、術前に切除のシミュレーション、術中にナビゲーションを行い、無輸血での肝切除を心がけております。膵切除症例は、単に膵頭十二指腸切除、膵体尾部切除だけでなく、腫瘍の悪性度から、機能温存できると判断した際は、膵中央区域切除、膵中央区域温存、十二指腸温存膵頭切除、脾温存膵体尾部切除等々の、テーラーメイド型各種膵切除が可能です。黄疸を来した患者様、灰白色便を呈する患者様、腹部エコーなどで肝内胆管の拡張を来した患者様、胆道系酵素上昇や CA19-9 上昇を呈する患者様、肝臓に腫瘍のある患者様、消化管の早期がんの患者様等々は、お気軽に何時でもご相談頂ければと存じます。

#### ●一般外科・急性腹症・外傷外科

2013 年 7 月救急部の創設に伴い、緊急手術、外傷外科にも広く対応致します。急性虫垂炎、鼠径・大腿・閉鎖孔ヘルニア、腹壁瘻痕ヘルニア、腸管癒着障害、胆石症などに対しては、鏡視下手術を基本戦略とします。急性胆嚢・胆管炎、内科的治療抵抗性の慢性膵炎、胃十二指腸潰瘍穿孔、大腸穿孔、虚血性腸疾患、上腸間膜動静脈閉塞等々には緊急・早期手術で迅速性、的確性をもって対応いたします。

#### ●循環器・脳卒中の急性期基幹病院として

抗血小板療法、抗凝固療法を施行中であつたり、心臓血管疾患を有していたり、脳血管障害を有する患者様の場合、対象疾患の外科治療のリスクに加えて、出血、塞栓症、心血管病変の増悪、脳血管障害の増悪など、しばしば致命的な合併症を惹起することがあります。当院では、心疾患、脳血管疾患患者に熟達した 6 名の麻酔科医の全身麻酔管理、周術期呼吸循環管理サポートの元、循環器、脳血管医師との横断的、迅速かつ密な連携で、心臓血管、脳血管障害を有する患者様に対する外科治療の安全性が一段と向上します。

### 【診療実績】

2012 年度は約 300 例の外科治療症例数ですが、2013 年 8 月の現時点で漸増中であり、かつ、肝胆膵外科手術症例の増加、腹腔鏡下手術症例の絶対数、割合の増加がみられています。2013 年度末に当院ホームページ外科のサイトにアップデート予定です。

### 【おわりに】

外科グループは、常に真摯に、夢と情熱とチャレンジ精神をもって、科学的根拠と先進医療の癒合を図り、緊急・待機手術を問わず、鹿児島県の外科・消化器外科医療に貢献し、次世代の外科医の育成に努めて参りたいと考えております。鹿児島県の諸先生方、皆様方には、今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

文責：外科医長 菰方 輝夫



## 鹿児島医療センター 平成25年度 脳卒中看護エキスパートナース研修公開講座のご案内

鹿児島医療センターでは、脳卒中看護の質の向上を図る事を目的に、12月2日(月)～12月10日(火)、7日間の脳卒中看護エキスパートナース研修を企画しております。

つきましては、この研修の全講座をオープン参加とし、地域の医療職、看護職員の多くの皆様にも参加していただけたらと考えております。1講座から受講を受け付けており、いくつでも無料で受講できますので是非、ご参加いただきたいと思います。

月 日	日 時	場 所	講義内容	講 師
12 / 2 (月)	9:30 ~ 10:30	鹿児島医療センター 研修棟3階	脳卒中看護概論	副看護師長
	13:00 ~ 14:25		脳卒中概論	脳血管内科医長
	14:30 ~ 16:30		脳卒中の分類と病態生理、診断および治療	脳血管内科医長
	16:30 ~ 17:15		高次脳機能障害の看護	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
12 / 3 (火)	8:30 ~ 9:30		急性期合併症予防の支援技術	集中ケア認定看護師
	9:30 ~ 10:20		脳卒中の薬物療法	薬剤師
	10:30 ~ 12:00		運動・認知機能障害とその評価	脳血管内科医師
	13:00 ~ 15:50		脳卒中の外科治療	統括診療部長
12 / 5 (木)	16:00 ~ 17:00		脳卒中の検査	脳血管内科医師
	8:30 ~ 9:30		栄養管理	栄養管理室長
	9:30 ~ 10:30		脳卒中リハビリテーション総論	リハビリテーション科医長
	10:40 ~ 12:00		早期離床と基本的動作獲得への支援技術	副理学療法士長
	13:00 ~ 14:30		日常生活活動自立へ向けた支援技術	作業療法士
12 / 6 (金)	14:40 ~ 16:00		摂食・嚥下のメカニズムと障害・訓練技術	言語聴覚士
	16:00 ~ 17:00		重篤化回避の支援技術	救急看護認定看護師
	8:30 ~ 9:30		再発予防の患者家族ケア	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
	9:30 ~ 10:30	脳卒中患者・家族の理解と支援	副看護師長	
	10:40 ~ 12:00	脳卒中患者の退院・転院支援	退院調整看護師長	
13:00 ~ 16:00	脳卒中患者のフィジカルアセスメント	集中ケア認定看護師 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師		

参加希望期日・講座名・施設名・参加者名をご記入の上FAXでお申し込み下さい。(申込締め切り 11月22日 金)

参加申し込み先：鹿児島医療センター 教育担当師長 中村 千鶴 宛 FAX 099-226-9246 TEL 099(223)1151

\*当院の駐車場は、外来患者さま、ご家族用にご用意しておりますが、一部工事で数不足のため、研修においでの際は、できるだけ公共交通機関をご利用いただくか、自家用車でおいでの場合は、近隣の有料駐車場をご利用いただきますようお願い致します。

## がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会のお知らせ

平成25年度鹿児島医療センター がん診療に対する緩和ケア研修会(多職種参加)を開催します。

鹿児島保健医療圏の地域がん診療連携拠点病院として、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修を行うという役割を果たすとともに、鹿児島県における緩和ケア医師等研修事業を円滑に進めるために、研修の講義及び企画・運営・進行に協力する指導者を養成することを目的として、医師のみならず、看護師、薬剤師、MSW など多職種参加の研修会を予定しております。平成22、24年度の診療報酬改定において「がん性疼痛緩和指導管理料」「緩和ケア診療加算」「緩和ケア病棟入院料」「がん患者カウンセリング料」「有床診療所緩和ケア診療加算」「外来緩和ケア管理料」については、緩和ケア研修会を修了した医師が治療に携わることが必須の算定条件になっています。

**開催日：平成26年1月12(日)・13日(月・祝日)**

**開催場所：鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校**

研修参加ご希望の方は

開催要領、日程表等をご確認の上、鹿児島医療センターホームページ(<http://www.kagomc.jp/etc/kanwakea/index.html>)より参加申込書をダウンロードの上、平成25年11月22日(金)までに、FAXまたはe-mailでお申し込みください。

問い合わせ先：耳鼻咽喉科 松崎 勉 matsu@kagomc2.hosp.go.jp

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター** (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 蘭田・四丸・永重・重吉・森・鷺頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津  
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

